

**主食用水稲での 4 種害虫に対する箱施薬剤の防除効果**

ウンカ類、コブノメイガに対する効果は、箱施薬剤の種類により異なる。箱施薬剤を選択する際は、最も被害が大きいトビロウンカに対して効果が認められるフィプロニル粒剤、またはピメトロジン粒剤を基本とする。

農業研究センター 生産環境研究所 病虫害研究室(担当者:樋口聡志・行徳 裕)

**研究のねらい**

イネ害虫に対する防除では育苗箱施薬剤が広く普及している。しかし、イネウンカ類に対する効果不足など、以前と比べて薬剤の効果が低下している。そこで、効果的な箱施薬剤を選択するために、主要な殺虫成分での 4 種害虫に対する防除効果を明らかにする。

**研究の成果**

1. トビロウンカに対する効果は、フィプロニル粒剤で高く、ピメトロジン粒剤で認められる。しかし、イミダクロプリド粒剤の効果は低い。
2. セジロウンカに対する効果は、イミダクロプリド粒剤で高く、ピメトロジン粒剤で認められる。しかし、フィプロニル粒剤の効果はやや低い。
3. ヒメトビウンカに対する効果は、他害虫に比べると低くなるが、ピメトロジン粒剤で安定的に認められる。しかし、イミダクロプリドおよびフィプロニル粒剤の効果は低い。
4. コブノメイガに対する効果は、クロラントラニリプロール粒剤で高く、フィプロニル粒剤で認められる。
5. 4 種害虫に対する効果は、箱施薬剤の種類により異なる。箱施薬剤を選択する際は、最も被害が大きいトビロウンカに対する効果を基本とする。

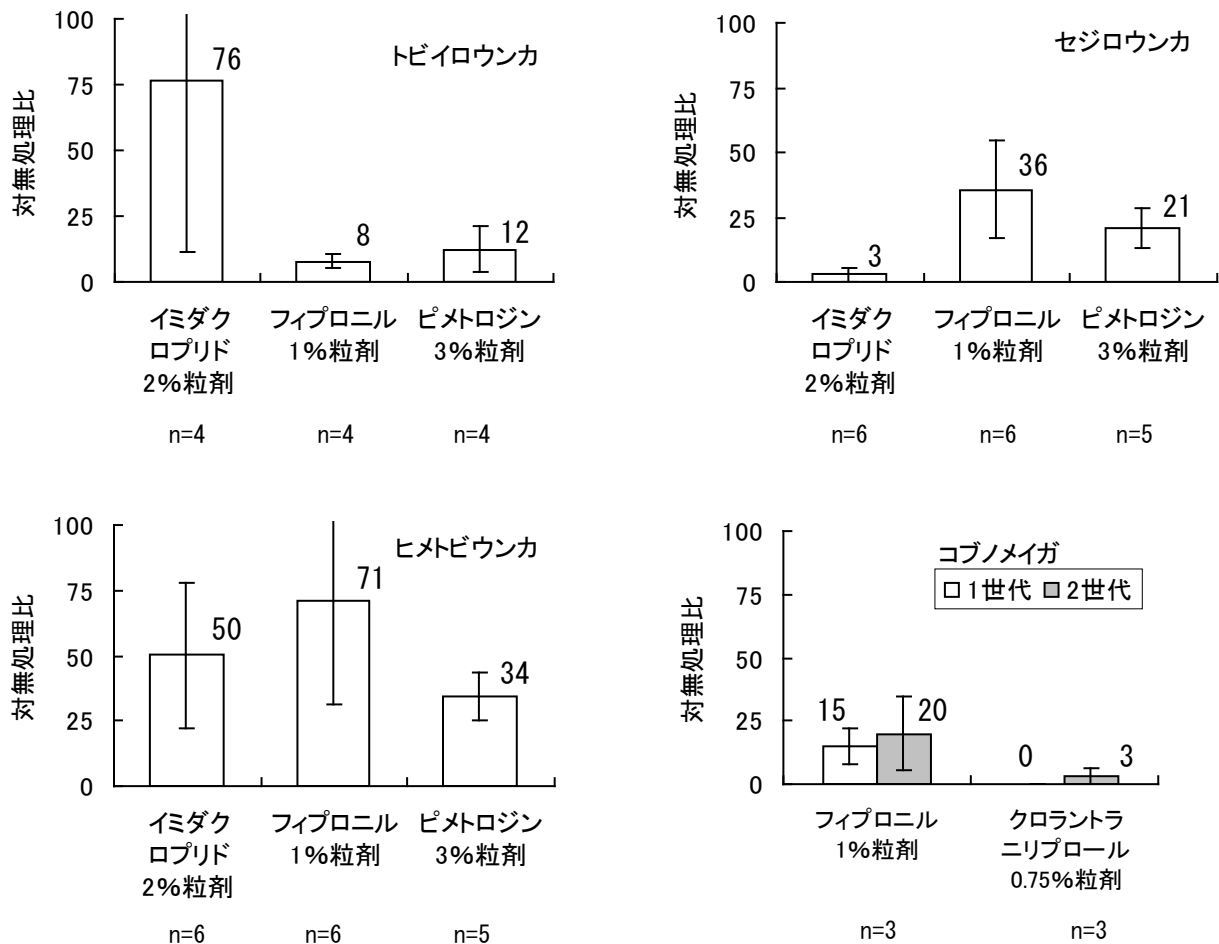
**普及上の留意点**

1. 地域で問題となる害虫が異なる場合は、その害虫に効果のある箱施薬剤を選択する。
2. 箱施薬剤を選択する際は、本田防除での使用薬剤や処理方法も考慮する。
3. 箱施薬剤を処理した場合でも、本田での害虫の発生状況により追加防除は必要である。

表 1 ウンカ類およびコブノメイガに対する箱施薬剤の登録状況

|        | イミダク<br>ロプリド<br>2%粒剤 | フィプロニル<br>1%粒剤 | ピメロジン<br>3%粒剤 | クロラントラ<br>ニリプロール<br>0.75%粒剤 |
|--------|----------------------|----------------|---------------|-----------------------------|
| ウンカ類   | ○                    | ○              | ○             | ×                           |
| コブノメイガ | ×                    | ○              | ×             | ○                           |

○ : 登録あり    × : 登録なし



【 対無処理比 】 = (処理区のデータ/無処理区のデータ) × 100  
 【対無処理比の見方】 10 以下 : 効果が高い      11~30 : 効果がある  
 31~50 : 効果がやや低い      51 以上 : 効果が低い  
 図中の縦線は標準偏差であり、長い程効果のばらつきが大きいことを示す。  
 n は試験回数を示す。

図 1 主食用水稲での 4 種害虫に対する箱施薬剤の防除効果

平成 18~21 年の 6 月 19 日前後に移植した普通期栽培水稲 (品種 : ヒノヒカリ) で試験した。移植時に 50g/箱を薬剤処理した。

ウンカ類については払い落とし調査を行い、無処理区の密度が 1 頭/株以上の時期で判定した。

【判定時期】 トビイロウンカ : 8 月中旬~9 月中旬、セジロウンカ : 7 月下旬~8 月中旬

ヒメトビウンカ : 7 月下旬~8 月中旬

コブノメイガについては、第 1 世代 (7 月下旬) と第 2 世代 (8 月下旬) の被害株率で判定した。